

子ども・子育て会議での
【平成27年度実績見込みと計画量の見直し案】に対する意見

No.	意見内容種別	子ども・子育て会議における意見等の要旨	回答要旨
1	保育の質	保育の量のことだけでなく、質の議論が必要。	平成28年度から保育指導課を新設し、指導監督等をより強化していく予定である。
2	定員設定	2歳児までの保育園や定員全員が持ち上がれない定員設定の保育園の場合には、子ども達はどうなるのか。	まず、定員設定については、入園申込時に保護者の了承を得ている。また、特に事業所内保育所の場合には、育児休業復帰時から利用を開始するが、2歳児までの間に住所地の保育園の利用に変わるケースもある。また、区内でも3歳児以降なら定員に空きのある園もある。 2歳児までの地域型保育事業(保育ルームや事業所内保育所の地域枠)に関しては、連携園が必要となってくるため、検討しているが、子ども達の行き場がなくなることはないように考えている。 今後、小規模な保育所や定員設定について議論していくことも必要だと考えている。
3	定員設定	認可保育園でも、3歳児以降に空きがでることが少なくなっている。3歳児以上の保育の確保も必要である。継続的に保育していくことが必要。	今後、小規模な保育所や定員設定について議論していくことも必要だと考えている。
4	定員設定	子ども達の愛着形成の観点からも卒園まで同じ保育園に通えることが望ましいと思う。	今後、小規模な保育所や定員設定について議論していくことも必要だと考えている。
5	保育の質 定員設定	0歳児～2歳児までの保育園や園庭がない保育園についての質の部分や社会的要請の部分について議論が必要。	この会議の中で、今後議論を深めていき、区の施策の参考にしていきたい。
6	入園認定	認定を受けられず、待機児童にもなれない子どももいる。認定の見直しは行わないのか。	今年度から新制度が始まり、新制度の下、保育の必要性の認定を行っている。

No.	意見内容種別	子ども・子育て会議における意見等の要旨	回答要旨
7	放課後児童健全育成事業 (学童クラブ)	事業計画の放課後児童健全育成事業(学童クラブ)の平成27年度の実績は、当初の量の見込みよりも増えているが、平成28年度以降の確保数については変更がない。これは、放課後子どもひろばの機能拡充で対応するためだと思いが、機能拡充ではなく、学童クラブで対応してほしい。	ニーズや実績を考慮したうえで、量の見込みを算出しているが、学童クラブの定員を大きく超えることが続くようであれば、学童クラブの定員拡充をすることも検討していく。
8	放課後児童健全育成事業 (学童クラブ)	学童保育の日曜日の利用がないため、日曜日に仕事をしている場合には、お弁当を持たせて児童館に行かせている家庭もある。日曜日利用はできないのか。	日曜日の受け入れを行っている学童クラブがあるが、利用実態が非常に少ない。併設児童館等も利用できるため今後見直しを検討している。
9	地域子育て支援拠点事業 利用者支援事業	待機児童解消を進めていることは評価するが、一方で、家庭で育児をしている方を支える施策を考えてほしい。母親の孤独感を減らす取組みが必要。児童館等のイベントが家から出るきっかけとなっている場合もある。	児童館は、いつでも乳幼児親子にきていただける場所である。そのほかに、子ども総合センター、子ども家庭支援センターもあるので、利用してほしい。
10	一時預かり事業② 幼稚園における在園児を対象とした一時預かり事業以外の一時預かり事業	例えば、切迫流産になってしまった際に子どもを緊急的に保育園に預けたい場合等の相談先はどこか。また、預けることができるのか。	専用室型の一時保育を行っている施設では、緊急一時の枠が1名分ある。保育園子ども園課の入園係が窓口となっているので、相談をしてほしい。
11	利用者支援事業	児童館に来る方よりは、児童館に来ない家庭にどうアプローチをするかが問題だと感じている。アウトリーチすることも必要ではないか。	区でも同じく課題だと認識している。
12	乳児家庭全戸訪問事業	児童館や子育てひろばに行けない親子もいる。ホームスタートとの連携はどうなっているのか。	すくすく赤ちゃん訪問の際に、ホームスタートの案内等も行っている。

子ども・子育て支援事業全般に対する意見【参考】

No.	意見内容種別	子ども・子育て会議における意見等の要旨	回答要旨
13	在宅で子育てしている人への支援	家庭で子育てをしている人への支援が必要。	区としても、在宅で子育てをしている方への支援も必要だと考えている。
14	保護者のつながり	親同士のつながりをつくるきっかけとなるような環境構成が必要だと思う。 当初のつながるきっかけとしては、子育てに関係のない分野からアプローチした方が人も集まりやすいのではないかな。	どのような保護者同士のつながり方があるのかという議論をこの会議でも深めていき、区の今後のアプローチ方法の参考としたい。
15	保護者のつながり	乳幼児健診では、同世代の子を持つ親が集まるため悩みの解決にならないことが多い。母親の先輩後輩のつながりがあるといい。	どのような保護者同士のつながり方があるのかという議論をこの会議でも深めていってほしい。
16	情報発信	利用者のニーズと発信している情報にミスマッチがあるのではないかな。 つながり方の工夫が必要。母親のネットワークを活用したらどうか。	どのような情報発信が必要かという議論をこの会議でも深めていってほしい。
17	情報発信	情報発信の方法を工夫すべき。必要な人に必要な情報が届いていない。	区でも、スマホのプッシュ通知機能を使った情報発信や子育て関連の部分だけに特化したサイトを作ったりしているが、必要な方全てに情報が届いていない現状があることは課題として認識している。
18	情報発信	HPをもっと利用者目線で作ることはできないのか。	区でも、スマホのプッシュ通知機能を使った情報発信や子育て関連の部分だけに特化したサイトを作ったりしているが、必要な方全てに情報が届いていない現状があることは課題として認識している。
19	情報発信	子育てに関してまとめて受付をする窓口があると分かりやすい。例えば、コンシェルジュのようなものがあるといい。	窓口をたくさん作った方がいいのか、一か所にまとめてしまった方がいいのか、様々なご意見があると思う。今後も議論してほしいテーマである。
20	情報発信	新宿子育て応援ナビは、あまり知られていないように思う。周知はしているのか。	妊娠届を出して際にお渡ししている「母子保健バッグ」に入れて、母子手帳と一緒に手渡すことで周知している。
21	児童館の運営	児童館の委託が進んでいるが、委託させた児童館と区の連携は行われているのか。	区職員との合同研修や、巡回などを通して連携は行っている。委託している児童館であっても、気軽に職員に相談してほしい。